

# 指導方法等の改善計画について〔国語科〕

坂町立坂小学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校	広島県	全国
74%	69%	67.2%

全国学力・学習状況調査 正答率と本年度の結果について

・「知識・技能」に関する問題の平均正答率は72.3%、「思考・判断・表現」に関する問題の平均正答率は75.4%であった。ともに県平均・全国平均を上回っていることから国語科における学力が概ね定着してきていると考えられる。一方で、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく使うことや言葉の特徴を理解することに関わる平均正答率は、県平均・全国平均を下回る結果となった。また、「書くこと」においては、平均正答率が50%を下回っていることから、図やグラフを用いて自分の考えが伝わるように工夫して表現することを苦手とする傾向が顕著に見られた。

## 重点課題

・数種類の資料を関係付けて捉え、条件を満たして記述することに課題がある。

(設問1二 通過率42.6%)

・同音異義語に注意して書くことや意味を理解して書くことに課題がある。

(設問1三(1)ア 通過率48.9%)

・情報と情報との関係の表し方を理解して使うことに課題がある。

(設問2三 通過率61.7%)

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法

・情報を整理する場面では、必要な情報に印を付けたり、情報と情報を矢印でつないだりするなどして、情報と情報との関係を視覚的に捉えることができるよう指導の工夫を行う。推敲の際は、観点を具体的に示して見直していく。

・漢字を文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けさせる。例えば、学校便りや新聞記事の漢字を読んだり、平仮名の文字を漢字に書き直したりと、日常生活の中で漢字の意味を理解して書く場面を意図的に設定する。

・目的に応じて必要だと判断して複数の語句を図示し、整理できるようにする。児童の発達段階に応じ、情報の整理の仕方を系統的に指導していく。

# 指導方法等の改善計画について

〔算数科・数学科〕

坂町立坂小学校

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

本校	広島県	全国
70%	64%	62.5%

全国学力・学習状況調査 正答率と本年度の結果について

- ・学習指導要領の領域別（「A 数と計算」「B 図形」「C（1）測定」「C（2）変化と関係」「D データの活用」）の平均正答率は、県平均・全国平均と比べて大きく上回っている。このことから、算数科における学力が概ね定着していると言える。
- ・一方で、「B 図形」（第3学年）（第5学年）に関わる設問の平均正答率は17%と県平均・全国平均と比べ、約8%も下回る最も低い結果であった。目的の図形をつくるために、どのような操作をすればよいのか、図形の意味や性質を基に、見通しを立てて考えることへの課題が浮き彫りとなった。

## 重点課題

- ・正三角形の意味や性質について理解し、見通しをもって考えることに課題がある。（設問2三 通過率17.0%）
- ・高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。（設問2四 通過率27.7%）
- ・百分率で表された割合について理解することに課題がある。（設問4一 通過率51.1%）

## 重点課題に対応した改善指導内容及び方法

- ・図や言葉から「底辺」や「高さ」の関係を捉えるとともに、問われていることを正確に理解するよう指導を行う。また、実際に正三角形や頂角の大きさが $120^\circ$ の二等辺三角形をつかって頂角の大きさを捉えるような数学的活動を意図的に仕組み、角の大きさに関する実感を伴った理解を促す。
- ・平行な直線に挟まれた底辺が等しい二つの平行四辺形や二つの三角形の面積を比べ、形が異なっても、底辺と高さが等しければ面積は等しくなることを計算だけでなく、公式と関連させて説明する場面を設定する。
- ・同じ大きさの割合について考える際に基準量を「1」「10」「100」と変化させ、それに対応する比較量を考えさせたり、数直線を用いて表すことにより数量の関係を視覚的に捉えやすくしたりと教材の工夫を行う。

# 指導方法等の改善計画について

〔質問紙調査〕

坂町立坂小学校

## (1) 生活・学習

児童・生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容
質問番号（20）学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。 （肯定的回答：30分以上 27.2%） 質問番号（23）新聞を読んでいますか。 （肯定的回答：月に1～3回程度以上 25.1%）	<ul style="list-style-type: none"><li>・広島県子供の読書活動推進計画に基づいて、本に親しむことから目的に応じて読むことができるように図書委員会による読書啓発活動を意図的に設定する。また、朝読や雨天時の休憩の時間に読書啓発を促すなど、本に触れる時間を確保する。</li><li>・新聞のスポーツ欄などの児童にとって身近な記事を取り上げ、写真の選び方や見出しの工夫など着眼点を決めて読む。新聞を身近に感じられるような場を仕組む。</li></ul>

## (2) 教科

<b>国語</b> 児童・生徒の回答についての課題（現状値） 質問番号（43） 国語の勉強は好きですか。 （肯定的回答 68.8%）	授業改善の方向性や具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"><li>・国語を学ぶことの大切さを感じている児童が多い反面、学ぶことの楽しさにつながっていないことが分かった。授業の中で、一人一人の学びを認め合い、振り返りでは、一人一人の学びの価値付けを図り、児童の自己肯定感の向上を目指す。</li></ul>
<b>算数・数学</b> 児童・生徒の回答についての課題（現状値） 質問番号（51） 算数の勉強は好きですか。 （肯定的回答 60.4%）	授業改善の方向性や具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能の習得だけでなく、身に付けた知識・技能を使った数学的活動を取り入れ、学ぶ楽しさを実感できるようにする。また、低学年段階から児童のつまづきを的確に把握し、個別指導や複数による指導体制の充実を図る。</li></ul>
<b>英語科</b> 児童・生徒の回答についての課題（現状値） 質問番号（55） 英語の勉強は好きですか。 （肯定的回答 62.6%）	授業改善の方向性や具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"><li>・外国語や外国の文化を学ぶことへの興味・関心を高めるために、児童の既知とのずれを感じさせるようなクイズを今後も継続して取り入れていく。電子黒板を活用し、視覚・聴覚を通して、外国についてもっと学びたいと思う場面を多く設定する。</li></ul>